

高鍋町の先賢と文化財



県指定史跡石井十次生家
昭和47年（1972年）指定

大字上江字馬場原にあり、岡山県医学校に入学するまで十次はここで育ちました。
建物は、木像瓦葺平屋建102平方メートル（約30坪）の広さがあり、当時より一部が補修されました。邸内には、石碑と案内板があります。

石井十次生家 | 石井十次立像 | 歌碑



明治27年（1894）3月29日の石井十次日記に「途上の所感」として、高鍋町が教育に最適の地であると讚美した三連の詩があり、岡山孤児院を茶臼原に移した意図がみられます。
高鍋高等学校創立50周年の事業として同校同窓会がこの詩を刻み、昭和47年（1972）4月1日に建設しました。

歌碑（高鍋高等学校正門内側）

石井十次が男女の孤児と共に、神を信じ力強く生きようとする姿を表現したもので、像は西の茶臼原台地に向かって建っています。また、この立像は、高鍋信用金庫が寄贈しました。



石井十次立像

（高鍋町中央公園 東側）